

慶應四年戊辰八月

80

70

5

2

6

7

3

4

1

2

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

内外新聞第八

浪華 知新館

西垣文庫
文庫10
7348
8



特文庫10

7348

8

内外新聞第八

海外新聞譯

○商法

報知

ハ前日ニ異

カ

ラザル

ガ故ニ

今コレナ

記載

セズ

蠶

卵紙ハ此頃ヨリ賣出セリ極上品ニテハ一枚ニ付二兩一分

ヨリニ兩マデニ賣シコトナ日本商人願フ

日本商人蠶卵紙チ賣シタル者ハ莫太ノ損分ニ成

リシトゾ

タコウホルモサ

地

ニ在ルホワイト

人ヨリ

申来リシ彼地ノ事情

○以國土人ハ稍開化シタルト開ケザルトノニ種ニ分チ未

文庫

タ闊ケザル後ハ支那人ト交接シテ婚チ結ビ稍彼ノ風俗ヲ
慣ベリ併自國ノ言語ヲ用ヒシ故兼テ定メ置シ場所ニテ又
カウヨリ東北四十五里ノ地ニ住スル土人ト支那人ト八日
毎ニ會合シテ通商セル通弁チ為セリ此所ニ於テ支那人富
饒ノ島人工鍊鹽麻煙草薩摩芋等ノ諸品チ商賣セリ斯ノ如
ク互ニ商用相通スルトイヘトモ支那人ノ内地ニ入チ許サ
ズ島人モ又イマダ此ノ境チ出ズ若シ犯レテ境内ニ入者ア
レバ直ニ之ヲ殺害スルノ惡風習アリ斯ノ如ク夷俗ノ甚シ
キ徒トイヘトモ外國人エハ甚ダ慇懃厚情ナ以待遇シ且境
ニ出入スルコトヲ許セリ右土人ノ人種ハ皮膚黑色ニシテ

容貌美シク毛髮ハ黒ク目モ又黒シトイヘトモ大キクシテ
且丸ク稍支那人トハ違ヘリ其土人人每ニ弓矢戈ニ銃ヲ能
使用セリ又國境ハ甚ダ嶮シクシテ攻襲人ノ為ニ別ニ備ヘ
ヨ要セザルノ地形ナリ此土人ノ起原ヲ論スルニ至テハ如
何ヲ知テヨ記スベカラズト雖モ事ト支那人トハ稍違ニ寧
マレト地人ニ相似タリ此國ノ土風甚遊戯ノ道ナ好メリ余
此國ニ就キ将来ノ事ナ案ズルニ支那人彼ノ狡黠ニ内地
ノ貴品良物ヲ經シ終ニ國ノ支那人彼ノ狡黠ニ内地
去年戰爭ノ後再復戰ヒニ及ビレカド幸ニ勝利ヨ得シ
一八全ク魯斯耶ノ應援ニヨウテナルベシト案ス今彼

地ヨリ報告セし書面ノ一ヲ以テ其大旨ヲ示ス

朝鮮ヨリ來狀ノ寫

一筆致啓上候先便奉入御意候異船來寇ノ一件任官呼下返
詞ニ以テ尋問之趣意内々聞取候處去月十八日京畿道ノ萬
領永宗ト申島ニ大美國ノ船一艘到来イタシ人數百余人上
陸竊慢猖獗スルヲ以水官ノ者ヨリ申出則永宗ノ僉使孝哲
ト申人單騎ニシテ馳趣竊ニ同ヒ直ニ引返シ密ニ軍令ヲ下
シ伏兵ヲ設ケ賊ヲ要地ニ誘出レ断然及接戰候所賊軍大ニ
敗走竟ニ巨魁者二人ヲ斬從卒者凡八十人許討殺殘徒脚船
飛乗リ或ハ溺没或ハ漩渦漸ニ本船へ逃帰候無程同所出帆

ノ由ニ付委細ノ儀、未不相知候得共此節之一戰我邦ノ人民
死傷一人モ無之候由此後トテモ渠賊幾度窺ヒ來候共同謀ニ
事ト被存候青德氏申出候尤大美國ハ何國ニ候哉ト相尋候處
矢張一昨秋來舶ノ佛夷ノ由返詞來候右爭戰ノ次第今般疾外
國ヨリ宦聽工奉スヘキ折柄吉封幸右衛門歸國申渡候ニ付書
余者同人ヘ申合置候条御承知下サレ官邊御届向キ殿様御旅
館工御注進可然仰上被下度奉希候恐惶謹言

閏四月十五日

御支配御連名

長岡合戦七八日頃ヨリ毎日戦争ニテ双方打合ニ相成川満水
ニテ川向ト川手前ト打合毎日ニ御坐候

今日迄ニ九日斗戦争ニ御坐山ノ手口妙見ト由処尾州之藩松
代之藩信州大名所々藩川手前ニハ薩長之人數高田入數御本
藩御人數八代リ々々打合ニテ毎日怪我死人七八人斗完有之
候由川ハ丹波嶋ノ下モニテ大川也川幅半里斗有之由誠ニ洪
水故渡舟等五六ヶ數ニ甘川ヲ挾ミ合戦ニ御坐候上坂田ヨリ
十七日ニ長岡口宮市ト申駅エ繰出シニ相成宮本ヨリ川迄二
里斗リ有之ニ付大砲カタマリノ音雨ノ降候様相聞申候今ニ長岡ノ城
ハ落城無之追々官軍の方縁出シニ相成一刻モ長岡落城相待

申候

長岡戦争之处官軍方勝利ニテ信濃川ヲ打渡レ一番ニハ船二
艘ニテ昨夜御本藩御人數中之島エ相渡リ夜ニ入向ヘ渡リ込
ニ番ニハ薩長之人數打渡リ候日數十日之間川ヲ挾ミ大砲等
打合ニ御坐候長岡城下ヲ三四ヶ所ヨリ大砲ニテ焼拂大敗軍
之様子ニ御坐候昨日見物合戦場半里斗リ手前ニテ長峯ト申
小高キ处ヘ罷越打合ノ處目覧敷次第ニ御坐候味方怪我死人
未タ相証リ不申昨日迄惣人數之内十五六人モ有之其内死人
四人有之由今十九日四ツ時頃長岡城焼拂ニ相成官軍不殘川
ヲ渡リ長岡城下所々大砲ニテ焼拂ニ相成味方大勝利ニ御坐

図中目標

口 兵隊陣所

砲戦射線

十渡之場

兵火

金倉

口 金名

里金

口 官軍

婦湯

口 官軍

小千谷

浦力

浦十

三屋

口 高田

代

長岡

口 明石

口 池布

長岡口
板峠

口 會津

六日町

口 藩州

王吉町

太六村

長岡城

下城

口 奈良

口 金名

口 金名

口 金名

口 金名

口 金名

八之五

口 加列

口 与板

追道

金名

壯伸山

口 藩

金町

八之五

口 加列

口 与板

口 藩

金町

八之五

口 加列

候事

右北越ヨリ持歸リシト士戦地之圖ノ写

論者曰右文中前後或ハ重言ニ成リタル丸等アレニ強テ不
改傳写ノ俟ヲ記ス讀人怪シム事ナカレ

或人之說

○先ニ布告セシ信乃飯山エ乱入セシ賊軍ノ隊長タル古屋佐
久左衛門モ何レノ戰爭ニヤ長刃之戰士ト組討ノ勝負ニテ戰
歿セリト古屋カ所持ノ胴亂ナリトテ大キナル胴亂ヲ分捕セ
シ由ヲ語リテ見セラレシ由

京都ヨリノ報知

○先頃ヨリ上京アリシ旧幕府旗本ノ面々

朝廷エ歸順ノ輩本領安堵之旨被仰出當六月廿七日不殘參
内御礼相濟追々在所エ可引取トノ御事ナリト右ノ面々高
千石ニ付二百両完金子可差出儀ヲ被仰付其内攝州地黄ノ
領主能勢氏ハ徳川氏ノ時ヨリ京師日ノ國御警衛ヲ勤メテレ
當春ノ騒乱ニキ始終同所ヲ警衛アリ幕府左祖ノ色ナク同四
月造警衛無滯勤メラレシ功ニヨリ右出金之儀ヲ差免サレシ
ト是モ又規模ノ事也ト沙汰ス

○五月下旬仙臺藩京誥之人々屋舗ヲ召上ラレ江乃領地エ

所通弘

大坂心齋橋南一下目
同 同 同 同 同 同 安土町
北久太郎町北
心齋橋本町北入
北久太郎町四丁
京都四条河原町西入
三条御幸町角
御幸町姉小路上ル
三条寺町西入
富小路四条上ル
寺町姉小路上ル

敷賀屋九兵衛
河内屋和助
河内屋喜兵衛
河内屋新次郎
山城屋勘清
吉野屋仁兵
下子屋甚兵衛
助助衛
七七

引退キ夫ヨリ婦女子等ヲ駕籠ニ乗セ宿送リニテ奥羽工下リ
タルヲ見タル由東國ヨリ上京セシ旅人物語レリト
○慶應四戊辰乃ト二月十四日東伐の軍ふそぞりて都城
ゆると
土藩 岡本曉馬橘寧信 二十文
かきりハツの浦もんあらく吹をあは風り吹くせみヒ
梓弓ひさとくさー大丈丈らうつ波の音ふねをくらひそれ
家子
右加哥ニテ京師在郷し知己ニ致め並後に月廿三日野翁
今市狂爭戦ノ勑戦死

